

大原総合病院より「J-MAT」派遣



熊本地震で、被災者の医療相談などにあたるため、5月22日（日）、大原総合病院から「J-MAT」を派遣しました。

日本医師会からの要請を受け派遣された「J-MAT」は、医療体制が整うまで、現地の地域医療を支援するためのチームです。

派遣されたのは、医師、薬剤師、看護師など6名で、被災者の医療相談や災害関連死の防止などにあたります。

代表を務める小針健大医師（大原総合病院 耳鼻咽喉科）は出陣式で、「東日本大震災の時に助けていただいた感謝の気持ちを行動で示せるように、精一杯頑張ってきた」と意気込みを話しました。

（J-MAT 派遣は5月28日まで）



第5回 ICLS 講習会を開催しました

平成28年5月15日（日）、本院 第3会議室において、第5回 ICLS 講習会を開催しました。

コースディレクターを福島県立医科大学副理事長 ふくしま国際医療科学センター長 谷川攻一先生、インストラクターを当院副院長 循環器科 石橋敏幸先生および福島県立医科大学臨床研究イノベーションセンター臨床研究フェロー 高橋世先生が担当し、12名の受講者が、「突然の心停止に対する最初の10分間の対応と適切なチーム蘇生」を習得しました。実技実習を中心としたコースで、受講者は2グループに分かれて実際に即したシミュレーション実習を繰り返し、蘇生のために必要な技術や救急蘇生現場でのチーム医療を身につけました。

真剣な中にも楽しく救急医療を学び、大原のボトムアップが順調に進んでいることを実感した1日となりました。受講生からは“病棟の他の人にも勧めよう”、“次回はアシストとして参加し繰り返し学びたい”、“先生方にも是非参加してもらいたい”等々の声がありました。次回は、8月6日に開催予定です。



第18回 日本医療マネジメント学会学術総会に参加

4月22日(金)・23日(土)の両日に、福岡国際会議場(福岡県)にて「第18回 日本医療マネジメント学会学術総会」に大原総合病院より参加し、3題の演題発表を行ってきました。発表演題は下記の通りです。

- (1)「急性期病院における入退院支援室の取り組み～看護ケアの充実を目指して～」(総看護部長 清野伊奈美)
- (2)「当院急性期リハビリテーションセンターにおける業務改善への取り組みについて」(リハビリテーション科 科長 菅野幸子)
- (3)「地域連携実務者のためのマーケティング戦略～東北7県医療連携実務者協議会 in 福島」(地域連携相談室 室長 菅野雅博)



どのテーマも現在の医療政策に準ずる内容のため、活発な質疑応答や終了後等で他病院からの声掛けもありました。

今回は熊本地震から間もない開催でもあり、臨時報告として熊本への医療支援、及びD-MATの活動報告がありました。

当院としても新たな課題を発見することができ、質向上のために更に業務改善等を行っていきます。

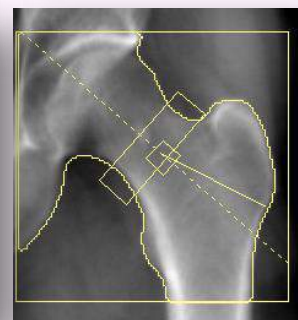
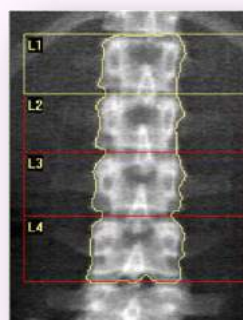
HOLOGIC 社 骨密度測定装置 Horizon Ci

大原総合病院では骨粗鬆症ガイドラインにおけるDXA法による骨密度測定装置を設置しております。腰椎と大腿骨の骨密度を測定することができ、骨粗鬆症診断において最も推奨される検査が可能です。

ご紹介・共同利用の際は、お気軽にお問い合わせください。

大原総合病院(本院) 地域連携相談室直通: TEL 024-526-0371

FAX 024-526-0935

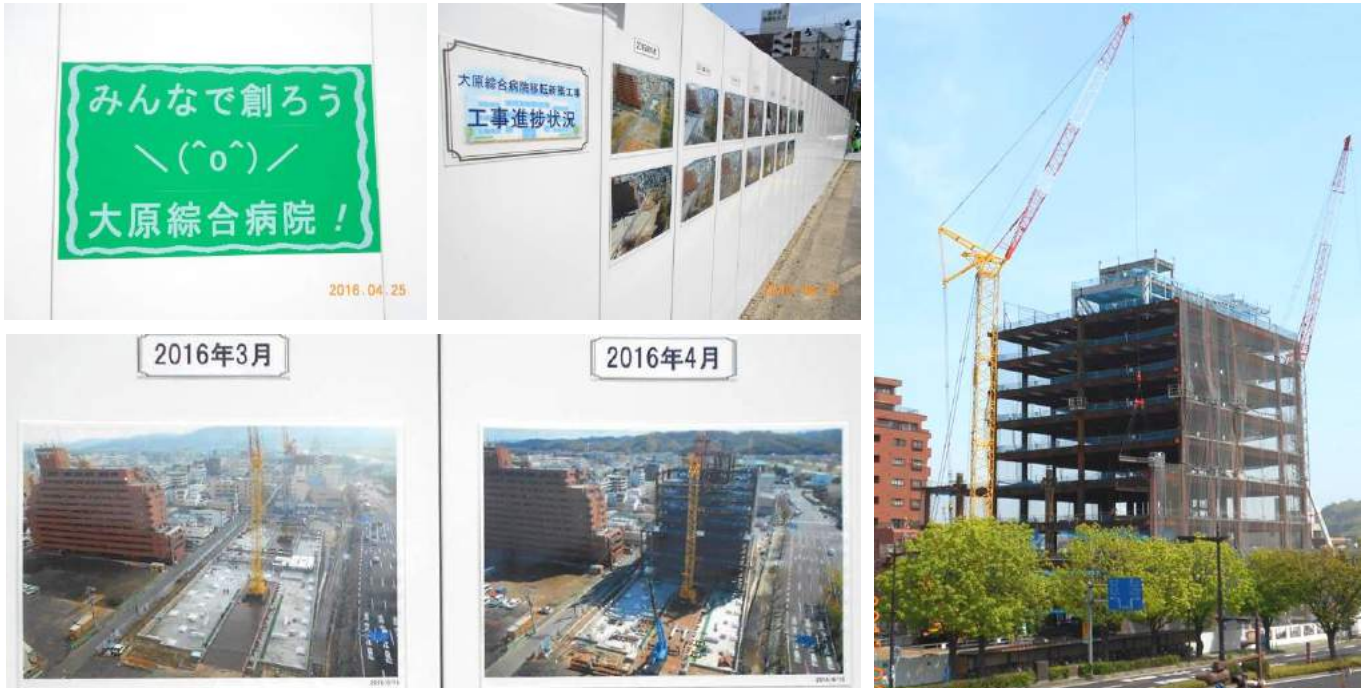


新病院 TOPICS

新病院施工者(鹿島JV)が、今年度の現場スローガンを『みんなで創ろう\(^o^)/大原綜合病院!』として掲げております。工事に携わる関係者全員で新しい大原綜合病院を創り上げたいとの思いからとのことです。

仮囲いには、このスローガンとともに、工事進捗状況の写真なども掲示され、3月10日に1本目の柱が立ってから、順調に進捗していることが分かります。

お近くにおいでの際には、ぜひ工事現場周辺の掲示にもご注目ください。



診療情報提供書様式ダウンロード配布の開始について

法人名称と様式の一部を変更した診療情報提供書を、当院ホームページからダウンロードできるようになりました。

診療予約日のご希望の有無や、予約済みのご連絡などのチェック項目も追加し、より使いやすく様式を一部変更しております。

ぜひ多くの先生方にご使用いただきたく、ご案内申し上げます。

なお、従来の複写式の手書き用紙も、引き続きご使用いただけますので、併せてご案内いたします。

地域の先生方へ(紹介状について)

大原綜合病院は、平成20年9月26日付で福島県より地域医療支援病院として承認を受けました。地域の先生方と相互に円滑な連携を図り、それぞれの医療機関の有する機能を有効かつ迅速に活用することにより、患者さんが地域で継続性のある適切な医療が受けることが出来るよう体制を整えて参ります。ご紹介者さんのご予約の際には「患者紹介用FAX連絡票」・「診療情報提供書」をFAXにてお送りいただければ手続きがスムーズです。当院専用の書式もご用意しておりますので、必要に応じて以下よりダウンロードしてご利用ください。

【大原綜合病院(本院)用】

- ・患者紹介用FAX連絡票・診療情報提供書(PDF)
- ・患者紹介用FAX連絡票・診療情報提供書(Excel)

【大原医療センター用】

- ・患者紹介用FAX連絡票・診療情報提供書(PDF)
- ・患者紹介用FAX連絡票・診療情報提供書(Excel)

※大原医療センターについては、予約は不要ですが、患者さんの待ち時間軽減のため、事前のFAX送信にご協力ください。

※ご紹介に際しましては、紹介先担当医師の診察日のご確認をお願いいたします。

※大原記念財団トップページ(<http://www.ohara-hp.or.jp/>)の「地域医療連携」をクリック→「地域の先生方へ(紹介状について)」からダウンロードしてください。

※Excel版・PDF版の両方をご用意しておりますので、ぜひご活用ください。

Information

平成28年4月22日(金)ユニックスビルにて組織文化工学研究所・石田恵介先生を講師にお迎えし、2年目フォローアップ研修が開催されました。
新入から1年の振り返りと2年目職員としての自覚と備えておくべきスキルの強化を研修しました。
2年目職員の皆さんは、グループワークを通じて同期との振り返りの共有と今後の心構えを再確認しました。



大原記念財団災害医療支援委員会では、熊本地震による被災者の皆さまの救済や被災地の復旧に役立てていただくために募金活動を実施しました。
ご協力いただいた義援金 381,223 円は一般財団法人福島民報教育福祉事業財団を通じ被災者の皆さまへ届けられます。
大原記念財団では被災者の方々への救援が一刻も早く行われ、一日も早い被災地の復興を心よりお祈り申し上げます。



平成 28 年 5 月 9・10 日に福島テルサにて組織文化工学研究所・奈良和哉先生をお迎えし、管理者研修(9日)監督者(主任)研修(10日)が行われました。
この管理者・監督者研修は平成 28 年度「能力開発プログラム」に基づいたものです。管理・監督職としての役割や責任に対する意識の向上を図るとともに、管理者として必要な組織管理能力の向上と監督者としての人材育成についてグループ討議を交え実施されました。



平成 28 年 5 月 20 日(金)に福島テルサにおいて、当財団特任理事長補佐 井上徹英先生をお迎えし、「一流の病院事務職員を目指して」と題した事務職員対象の研修会が行われました。井上先生から体験談を交えたご講義をいただき、事務職員が担う医療従事者としての役割を再確認することができました。

当財団では新病院開院へ向け、地域の皆様に安心を与えられる急性期病院を目指すべく、今後も人材育成に力を入れて参ります。



大原記念財団の理念 人を愛し、病を究める

私たちは、すべての患者さまとご家族のために常に一步先行く医療を探究し、優しさを持って最善を尽くす医療を実践することにより、地域から信頼される病院を目指します。

制作 大原総合病院 地域連携相談室
発行者 一般財団法人大原記念財団
理事長 平子 健
電話 024(526)0371 ダイヤルイン
FAX 024(526)0935
代表 024(526)0300 内線(1157)
住所 福島市大町 6 番 11 号

大原記念財団職員行動規範 10カ条

私たちは、

1. 医療安全を確立し、安心と信頼を獲得します。
2. 命の尊厳を深く理解し、患者さまの権利を尊重します。
3. 優しさを持ち、気づきの医療を実践します。
4. 人間性豊かな医療人となるよう、常に自己研鑽します。
5. 新しいことへの挑戦し、質の高い医療を創造します。
6. 医療人としての誇りを持ち、如何なる時も最善を尽くします。
7. 医療情報の共有と活用を促進し、得られた情報は厳格に管理します。
8. 地域社会に支えられていることを認識し、医療連携を推進します。
9. 相互に敬意を払い、連携を密にして組織的に行動します。
10. 未来への発展のために、健全経営を目指して努力します。